

「鹿児島県の近現代」教育研究センター

# 近現代センター通信

第2号 2023年9月

## —目次—

新任スタッフ紹介（伴野文亮・中嶋晋平）	1	「鹿児島県の近現代」連続トークイベント	
客員教授・客員研究員紹介	2	（鈴木優作）	10
令和5年春のシンポジウム（鈴木優作）	2	墓地は歴史の宝庫（友野春久）	11
鹿児島紀行（鷺山郁子）	3	忘れられていく学校の記録（林匡）	12
令和4年度地域マネジメント教育研究プロジェクト報告会について（西村知）	5	声を聴くということについて（日高優介）	14
令和5年度地域マネジメント教育研究プロジェクトの紹介	6	「鹿児島県の戦争の記憶」を求めて（中嶋晋平）	16
地域シンポジウム「沖永良部の近現代」（澤田成章）	7	鹿児島県の近現代文学（2）（鈴木優作）	17
上町歴史一町づくりプロジェクトに参加して（丹羽謙治）	8	本の紹介（日高優介）	18
		寄贈資料・今後の予定・編集後記	19

## 新任スタッフ紹介

### 伴野 文亮 特任准教授

2023年4月に特任准教授として着任しました、伴野文亮と申します。専門は日本史、とりわけ19世紀以降の「日本」における〈偉人〉顕彰や俳諧といった文化史を研究しています。

「鹿児島県の近現代」研究にあたっては、私は特に、ふつうの人々の歴史経験に寄り添った歴史観が重要だと考えています。その視座のもとに、私は島嶼部を含めた南九州地域に遺る古文書や書物などの文献資料のみならず、石碑や史蹟などの非文献資料も「史料」として対象化し、19世紀以降の薩摩／鹿児島が経験した歴史を総合的に詳らかにして参ります。

その研究成果は、広く国内外に発信するとともに、様々な「学びの場」の創造に活かして参ります。具体的には、教育委員会や現場の先生方と連携した小・中・高校における地域学習プログラムの創出や、各市町村における文化財課と共同した市民講座の企画などに取り組みます。

以上の実践のもとに、新しい「鹿児島県の近現代」教育研究の基盤形成に全力を尽くす所存ですので、何卒ご支援賜れますようお願い申し上げます。

### 中嶋 晋平 特任助教

私はこれまで、主に2つのテーマに関心をもってきました。1つ目は戦前の軍隊と地域社会がどのように関わったのかについての研究です。2つ目は戦前・占領期のマス・メディアに関する研究です。

センターではこれまでの経験を活かし、①鹿児島と軍隊との関わり、②鹿児島の地域メディアについて、資料収集や研究成果の発表などを行っていきたくと考えています。

鹿児島は明治から現在に至るまで、旧日本軍、進駐軍、自衛隊など、いくつもの軍事組織と関わりを持ってきました。軍隊をめぐる社会のあり様を、鹿児島を舞台に研究していきたくと考えています。

鹿児島の地域メディアについては、戦前の地方紙や占領期の雑誌について調査・研究を進めていきます。地域メディアはその時々の地域のあり様を描き出す貴重な歴史資料ですが、まだまだその活用は進んでいません。地域メディアを手掛かりとして鹿児島の近現代を浮き彫りにしていきます。

私にとって鹿児島は魅力あふれる地域です。鹿児島で研究できることに感謝し、地域の方々とともに、地域資源の活用に全力で取り組んでいきます。